

◆本の紹介◆

地学ハンドブックシリーズ29

『サメの歯化石のしらべ方・第2版』

著者：後藤仁敏・田中 猛・金子正彦・鈴木秀史・
高桑祐司・三本健二・サメの歯化石研究会

2024年1月26日発行、B5判 オールカラー102頁

ISSN 0918-5380

頒価1000円、地学団体研究会



本書の第1版は2020年3月1000部に出版されましたが、3年で完売されました。第1版の誤植の修正やその後の研究成果（板鰐類について8属16種の追加やカルカロクレス属をオトドゥス属に変更）を加筆し、さらに文献は90以上追加し、第2版が2024年1月26日に地学団体研究会より発行されました。

本書はⅠ章サメの歯化石をさがそう、Ⅱ章サメの歯化石を研究しよう、Ⅲ章古生代のサメの歯化石、Ⅳ章

中生代と新生代のサメの歯化石、地質年代表、参考文献から構成されています。本書の9ページによると、日本のサメの歯化石産地では、新生代第三紀中生代からの産出が多かったが、研究の進展により、古生代で9産地、中生代で8産地、白亜紀と新生代で37産地が新しく追加された。古生代の魚類化石の産地、中生代の魚類化石の産地、白亜紀および新生代の魚類化石の産地が11ページに掲載されている。それらの産地が列記され、魚類化石の産地めぐりをしたい方には、良いガイドブックとなっている。サメの歯化石の採集方法や、サメの歯の方向用語、サメの歯の一般形態、歯化石の計測方法、撮影方法、保存法などがⅠ章とⅡ章で説明されており、サメの歯化石を研究したい方には良い参考書となっている。

本書で掲載されているサメの歯化石の多くはカラー写真であり、露頭で発見したサメの歯化石を本書の写真や図を見ながら、歯化石の部位や化石種の同定ができるように工夫されている。本書を持ちながら、サメの歯化石の採集に行くのもいいかと思います。本書が契機になり、サメの歯化石の研究をする方が増えて、サメの歯化石の新しい産地発見や古生物研究の進展ができれば願う次第です。サメの歯化石に興味がある会員に本書を推薦します。また、周りでサメの歯化石に興味を持っている方に本書を薦めていただきたいと思います。

（三島弘幸）